

二十世紀の仏教と私の役割

大正大学文学部社会福祉学科 韓

京 愛

(韓 国)

仏教は、釈尊によって説示された生死の苦悩からの解脱道である。人間の最も大きな苦である死の苦悩から解脱して、人の心に安心と生きがいをもたらす道である。

今日、物質文明の急速な発展とともに人間は自分自身を見失っている。

人々の心の中には、何事も簡単に割り切ってしまうえない複雑なものがある。歌い、喚き、踊り狂っている人間が、かと思えば、政治運動に躍起になっている人間もいる。

人々は不安で精神病とストレスなど色々なこととで悩んでいる。

人間の意識の奥の方には意志によって制御することのできない暗い衝動、あるいは盲目的な動きがある。それは「煩惱」というような言葉では表現できないなにかである。「無明」といえばそれに一番近いであろうか？ いや、「無明」という他はないかも知れない。

禅は無明を破してくれると私は思う。「禅」という言葉は仏教が成立した当初からある。これ

は精神の安定・集中（三昧）を総称する言葉である。

ヨーロッパやアメリカでは、禪が盛んであるという。禪ブームが吹きまくっているという人もある。韓国でも一般の人々のために「市民禪房」が運営されている。この「市民禪房」は特に働く人達の間で人気を集めている。人々は異口同音に「坐禅をすると心が落ちついてくる。」という。現代人だけではなく未来人にとっても「禪」は生きる力になるであろう。

「地球は青かった。」これは初めて宇宙を飛んだソビエトのガガーリンの言葉である。

最近、酸性雨や海洋汚染・熱帯を中心にした地域の砂漠化現象・地球の温暖化、あるいはオゾン層の破壊等々の問題が、つぎつぎに出てくる。

今世紀最大の噴火といわれるフィリピン・ルソン島中部のピナトウボ山爆発も、日本雲仙岳

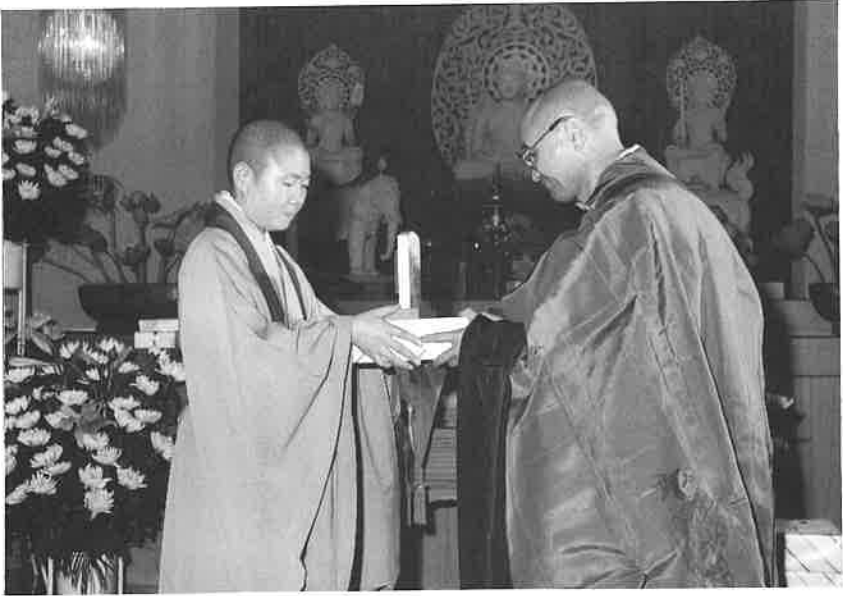
の火砕流の被害も、温暖化が原因で発生したと主張する学者の説も無理ではないであろう。どうやら地球は破滅に近づきつつあるのではないかと思われるようなことばかりおきている。

美しい地球が破滅して宇宙から姿を消すか、または地獄のような現象が現われるか。

仏教は人間が自然を支配するのではなく自然との共存を説く。自然と共存しながら理想の世界を作る。この世界こそ極楽である。

仏典には極楽のことが詳しく説かれている。釈尊が弟子の中でも智慧第一といわれた舍利弗を相手に、極楽のすばらしさについて次のように語っている。

「舍利弗よ極楽には大きな池があつて八つの功德をたたえた水が満々として、池の底には黄金の砂がきらめいています。池の中には、青い蓮花は青く、黄の蓮花は黄に、赤い蓮花は赤く、白い蓮花は白く、みなそ



れぞれに光とかぐわしい香りを放っているのです。舍利弗よ、極樂とは功德で出来た実にすばらしいところなのです」と。

環境がいくら汚染しても、仏教には自然と共存しながら地球上に極樂を作る使命があると思う。

『維摩経』によると、世界を幸福にするのは無我大悲の心だという。この世にあるすべての病の状態を知り、世の中から病気を除く方法を考え、実行に移すことが『維摩経』には説かれている。

維摩居士が文殊の問いに答える言葉は次のようなものである。

「迷いから妄執が起こり、そして私の病が生じたのです。すべての生けるものたちが病んでいるので、それ故に私も病むのです。もしも生けるものたちの病が消滅したならば、私の病も滅びるでしょう。」

この病は何によって起ったのであるかというならば、求道者の病は大いなる哀れみの故に起こったのです。

『維摩經』、東京大学仏教青年会編、『現代人の仏教聖典』

大慈大悲の心とは、すべての生きとし生けるものを哀れ慈しむ仏の心である。つまり維摩はまず自分が病気になるのである。

『観無量壽經』には「衆生において視ること自己の如し」と説かれている。

富める時も貧しい時も、封建時代にも、王朝時代にも、そして現代の民主社会でも、国の政体にかかわらずなく、人々の心は何とか光を渴望してやまない。

現代の福祉は、もはや慈善事業と考えられる領域から脱することができたようだが、慈善と考える源は、やはりみほとけの慈しみ給う心を自分の心にしたいたいという人間の願いから出たも

のであろう。

しかし人間性の極限まで考えてみなければ福祉活動をする人の心の成り立ちはわからない。福祉活動をする心だからこそ、これはなおざりにせず洗い出していかなければならないものはなかるうか。

急速な産業化、核家族化、高齢化社会の中で苦しむ人々のために仏教者は菩薩心をもち、一切の衆生を救済しなければならない。

二十一世紀の仏教は精神世界・環境問題・福祉社会の建設に積極的に取り組まなければならない。そこにこそ、仏教には人類が求める大きな使命がある。

私は、特に社会的に弱い立場におかれている人々のために働こうと思っている。仏教の修行にはげみながら人間の幸福のために働くことは出家の意味があると思う。